

特集 地域をおこす新たな力

南阿蘇村では、地域おこし協力隊制度を2017年度から活用し、今年度は新たに4人の隊員が加わり、これまでに（～2021年1月）24人の地域おこし協力隊を受け入れてきました。現在は11人の隊員が活躍しています。

2月14日（月）から19日（土）までの6日間でおこなわれる「2021年度地域おこし協力隊活動報告会」を前に、地域おこし協力隊とはそもそもどういった人たちなのか、現在どのような人たちが活動しているのかについて特集で紹介します。

地域おこし協力隊って どんな人たちなの？

地域おこし協力隊とは国の制度で、都市部から地方へ生活の拠点を移し、最長3年間の任期中に地方が抱えるさまざまな問題に対して行動し、地域の活性化に寄与しつつ、隊員の定住・定着を図る取り組みです。

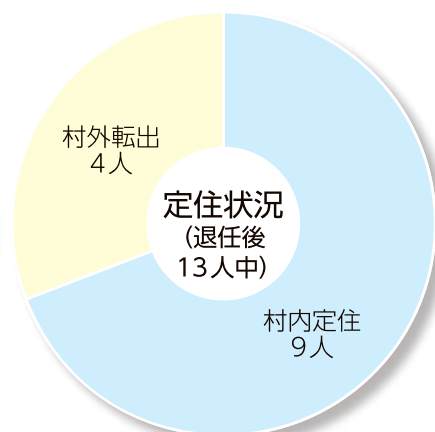
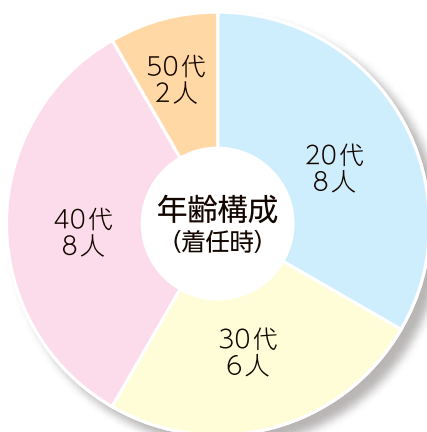
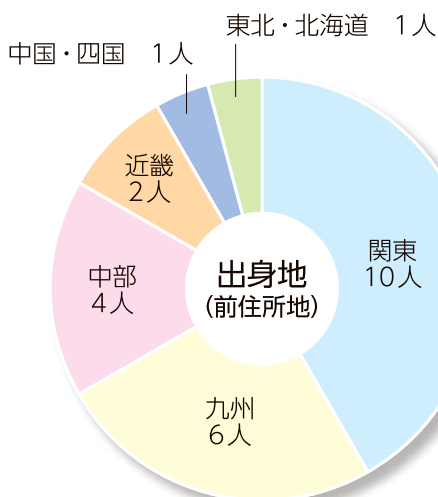
また、協力隊員に対しては国で決められた基準による補助金をもとに、各自治体により決められた報酬や活動経費が支給されます。他にも定住を目的とした起業や資格取得に対しても規定の補助金が交付され、定住に向けた手厚い支援がおこなわれます。

どのような活動が おこなわれているの？

村では、協力隊員の募集をおこなう際に、村の抱える課題解決のために取り組むべきプロジェクト（業務内容）を事前に提示し、そのプロジェクトに取り組みたいという応募者を募集しています。

現在は、移住定住促進、黒川地区創造的復興、ITを活用した地域活性、地域経営組織推進、南阿蘇鉄道復興支援、有機農業の6つのプロジェクトに携わり、役場庁舎ほか関係機関で活躍しています。

南阿蘇村地域おこし協力隊の現状（過去・現在含め24人中）



関係者インタビュー

地域を支える新たな力に期待

村の人口は、熊本地震直前の平成28年3月末は11,619人でしたが、令和3年11月は10,286人で、地震前と比べると1,333人が減っています。人口流出に伴い、地域の活力も低下したため、総務省が進めている地域おこし協力隊制度を活用し、協力隊員の募集をおこない、それぞれの隊員が復興業務、観光業務、移住定住業務などに携わりながら村の活力向上を図っています。

また、隊員としての3年間の任期後は、地域に定住することで、人口減少の歯止めになり、地域の区役などの参加による伝統文化の継承・存続が可能な地域が増えています。今後も制度をフルに活用し、担い手不足の解消や地域の活性化を図っていきたいです。

協力隊員には、都市から地方に拠点を移し、地方で活動しながら地域への定住・定着を図り、活性化につなげる取り組みが期待されます。隊員それぞれが地域住民と溶け込み関係人口を構築することも大事です。また、村の将来を見据えることも重要だと思います。今年4月に旧両併小学校に「一般社団法人 南阿蘇村農業みらい公社」が事業開始しますが、そこに新規就農者育成のための地域おこし協力隊を現在募集しています。農業担い手の拡充と共に村の発展に期待しています。



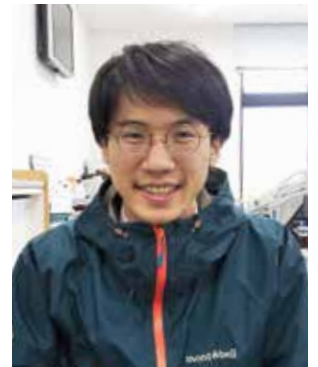
定住促進課
い で た し ず か
出田 静香 主事

未来に向けた種をまく ～協力隊での3年間という期間～

大学時代を過ごした熊本に転職したいと考えていたなかで、協力隊の制度を知りました。3年間という期限付きの協力隊の制度は、大好きな南阿蘇と繋がりを作るうえでも、今後の人生設計を考えるうえでも非常にちょうど良いものだと思います。スキルアップや起業のための補助制度が充実しているのもありがたい点です。

現在私は南阿蘇村が進める、ITの力で村の課題を解決する「スマートヴィレッジ構想」の推進業務に携わっています。自身にとっては未知の分野だったので、日々とても勉強になっていますが、この活動がそのまま任期後の自分の仕事に繋がるかはまだわかりません。「日々の業務」をするなかで「任期後の地域での仕事」を考える必要があるのが協力隊の大きな課題の一つであり、また面白い点でも感じています。

私自身は業務外でプログラミングの勉強をしたり、また趣味の延長で銃・霰の狩猟免許を取ったり、久木野でガレージ制作をしたりしています（「南阿蘇BASE」で検索して遊びに来てください！）。仕事に繋がる種まきをしている状態ですが、期限内に基盤を作り南阿蘇村の役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。



現協力隊員
の つ しゅうへい
野津 周平

任期中にいただいた「ご縁」を大切に、これからも南阿蘇で

令和3年の5月末まで協力隊として、情報収集および発信プロジェクト業務に従事していました五十嵐です。私の協力隊としての3年間の任期は、自分がやりたい仕事を自由にさせていただき、大好きな南阿蘇村を発信するという光栄なお仕事でした。また、協力隊後に自立し起業するための補助金制度のおかげで、フリーとして活動していくきっかけをいただきました。

現在は『photo Makana o Minamiaso』（ハワイ語で「南阿蘇の贈り物」）という屋号でフリーのカメラマンの仕事をしています（仕事の依頼は右記QRコードのfacebookアカウントへメッセージを）。これまでのように会社勤めや協力隊として定期的に給料を貰うのではなく、自分で営業して稼がなくてはいけないフリーの仕事は大変ですが、協力隊の任期中にいただいた「ご縁」のおかげで、好きなことで仕事ができます。これからも村や村人との繋がりを大切に、活動していければと思っています。

協力隊として南阿蘇村にやってくる人たちは、南阿蘇村が好きで村のために何かをやりたい人たちばかりです。役場の職員の方をはじめ、村民の方には協力隊とはどういった人たちなのか、どういった形で村に貢献しているのかをご理解いただき、これからも暖かく迎えていただければ幸いです。



協力隊 OG
い が ら し え み
五十嵐 恵美



現協力隊員紹介



南GO!!Station
なかにし みゆき
中西 美由紀

観光案内やレストランなどのサービス業、建設会社のアフターフォローで年間に約700軒の家を訪問し、家主様とコミュニケーションを取っていた経験を活かし、空き家バンクの業務に携わることで、熊本地震の際に災害ボランティアとして何度も訪れていた南阿蘇村に対して何かお役に立てるのではないかと、思い、協力隊になりました。

「移住定住交流会」や「みんなのための空き家セミナー」「空き家に関する無料相談会」を企画。家主様や移住希望者の気持ちに寄り添い、サポートをさせていただいていますが、退任まで残り5カ月となりました。

退任後も『空き家』に関わることを仕事にしていこうと準備を進めています。



南阿蘇鉄道
ふじおか まさと
藤岡 政人

前職は神戸で鉄道車両メーカーに勤め、主に北米車輛や新幹線の製造をおこなっていました。「きっぷの入る隙間は不良品」となる“技術と精度とスピード”を要求される仕事でした。

現在は南阿蘇鉄道復興支援業務として、施設保線（踏切設備や軌道関係）の管理をおこなっています。覚えることも多く、何より事

故が起きないように設備の維持管理がとても重要な仕事です。

南阿蘇鉄道の全線開通に向け、毎日いろいろ考えて行動しています。これからの目標は協力隊の任期が満了するまでに復興の支援をもっと具体的な形で残せるように努力していくことです。



みなみあそ観光局
やまうち けんせい
山内 健正

熊本市の出身です。協力隊として南阿蘇村に赴任する前は、コンビニの店員をしながらマウンテンバイクの契約選手をしていました。現在は、みなみあそ観光局で観光関連のさまざまな仕事をしています。

趣味はマウンテンバイクに乗ること、息子（1歳）と遊ぶことで、あそ望の郷くぎの内の『みなくるストア』にて自転車店を営業してい

ます。また、去年の11月から中松地区に転居し、店舗兼住宅としてのオープンを目指して準備中です。

今後の目標は「自転車で楽しく・思い切り遊べる環境」を南阿蘇村に作ることに。自転車のトラブル・乗り方・遊び方などなんでもお尋ねください！



みなみあそ観光局
くわはら けんいち
桑原 健一

専門学校を卒業後、都内のイタリアンレストラン（個人店）に9年間勤務し、ピザ・パスタ・ジェラートなどイタリア料理を学ばせていただいていた。その後カフェで2年間働き、南阿蘇村に地域おこし協力隊として移住。現在は、みなみあそ観光局のスタッフとして働いております。

協力隊としての活動内容は、主に「食」に関

わること。飲食事業者さんの営業時間などをまとめたショップカード制作や、伝承料理の研究などをおこなっています。

これからは、前職で学んだ経験を活かして南阿蘇村に自分のお店を出す事が目標です。



みなみあそ観光局
おのうち ゆうすけ
大内 佑介

地域おこし協力隊への入隊前は、東京都内でADとして東京のテレビ会社で勤務し、ドラマ制作の現場でさまざまな業務を経験しましたが、妻の故郷である阿蘇で結婚生活を送るため退職を決意して南阿蘇村へ移住しました。

仕事を探していた際に「南阿蘇村地域おこし協力隊」の募集を偶然目にし、自分の経験

してきたことを村おこしに活かせるのではないかと思います協力隊になりました。

現在は「みなみあそ観光局」で南阿蘇の情報発信や、村内事業者様のサポート、各種イベントの企画運営などをおこなっております。今後も南阿蘇の魅力発信のため尽力していきます。



みなみあそ観光局
たうち ひでき
田内 秀樹

協力隊になる前はタイに住んでいました。自動化設備の設計・開発や海外工場での技術指導などの経験があり、機械は身近な存在です。便利な工具でテンションが上がります。

現在は、観光案内や村内事業者のサポート、イベント手伝いなどの業務をおこなっています。水源地での利便性向上のためラックを設置したり、震災遺構(旧東海大)の管理運営に

携わらせていただいたりしました。

白水郵便局前にタイ料理店「アロイジャン」をオープンしました！ 将来は隣接する古民家を宿泊施設として改修し、地域とつながる、やさしい空間を作りあげていきたいです。



政策企画課
いちむら たかひろ
市村 孝広

私の出身は大阪ですが、大学時代を東海大学農学部生として黒川で過ごしました。その後、東北地方の会社に就職し養豚業務に従事していましたが、その間にずっと熊本地震により甚大な被害を受けた南阿蘇村で復興に携わる仕事がしたいとの思いを持っており、2021年2月から協力隊として震災関係のガイドなどの業務に携わっています。

これからも、自分の業務をとおして南阿蘇村全体や黒川地区が少しでも活性化するように尽力していきます。協力隊の任期後については、まだ悩んでいるところではありますが、これまでとこれからのさまざまな「ご縁」を大切に決断していきたいです。



農政課
たのうえ ゆな
田上 由菜

協力隊になる前は大学生でした。世界を知りたいと思い、留学や海外旅行などの経験をして多様な文化や価値観を学んでいました。祖父母の故郷、南阿蘇村の美しい景色が忘れられず移住してきました。

現在は農政課で事務や農家さんの訪問など「農」に関する活動をしています。村での生活や仕事は新しい発見や学びがあり、とても楽

しいです！

4月からは農業みらい公社(旧両併小学校)で事務局員として活動します。農業者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地などの課題を少しでも解決できるように、自分のできることを見つけて行動していきたいです。



農政課
つちだ はるな
植田 晴菜

私は大阪府出身で、学校卒業後も大阪で会社員をしていました。昔から自然と動物が好きで「自然に携わる仕事もしたいな」と思っていたところ、ご縁があり協力隊になりました。

現在は役場農政課で事務作業や農家さんに取材をして農業の勉強をしています。最近では茅刈りの講習を受けました！ また、南阿蘇村で感じたことやイベント情報をSNSで発信

しています。

今春から旧両併小学校に建設された農業みらい公社で事務をさせていただきます。村内の空き農地を新しく使いたい人に繋げて、南阿蘇村の美しい景色を守りたいと思っています。



南GO!!Station
いせい りょうみ
家入 明日美

大学進学を機に熊本を離れ、自然あふれる北海道帯広市で17年過ごしました。うち10年半を地元印刷会社の編集者・ライターとして勤務。道内各地を飛び回り、さまざまなライフスタイルや価値観に触れるなかで、地元熊本のことをもう一度学びなおしたいと思うようになり、協力隊に応募。今年1月に着任したばかりです。

移住定住促進の仕事は、南阿蘇への愛着を育むきっかけを作ることでもあると考えます。言葉を紡ぐ仕事に携わってきたことがお役に立てれば幸いです。

当面の目標は地区の場所を覚えること。フリーランス活動にも挑戦しながら、信頼関係を築いていきたいです。

別途配布の「2021年度地域おこし協力隊活動報告会」チラシのとおり、2月14日(月)から19日(土)にかけて、南阿蘇村役場庁舎1階エレベーター付近のロビーにて活動報告会がおこなわれます。南阿蘇村のためにさまざまな取り組みを熱心におこなっていただいている隊員の皆さまの日頃の成果報告を、ぜひご覧ください。